

施設名称：大阪府立近つ飛鳥博物館等		指定管理者： A K N 共同事業体			指定期間：令和 5 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日			所管課：大阪府教育庁 文化財保護課		
評価項目		評価の基準（内容）	指定管理者の自己評価 （12 月記入）		施設所管課の評価 （1 月記入）				評価委員会の指摘・提言	
			実績は 11 月末時点のものを記入	評価 ----- S～C		R5 評 価	R6 評 価	R7 評 価		
I 提案の履行状況に関する項目	(1)施設の設置目的および管理運営方針	◇館の設置目的及び提案内容に沿った管理運営がなされているか ○資料の収集・保管・展示	○資料の収集、保管、展示 ・常設展示室・特別展示室は、目視点検により展示品を管理。 ・展示室・収蔵庫（特別・一般）において温湿度データ収集。 ・特別収蔵庫温湿度のモニター監視。 ・重要文化財「修羅」にカビ状の付着物が認められたため、6 月に調査を実施した。結果、カビではなく、保存上の問題はないと確認された。定期点検は 2 月に実施予定。 また、紫金山古墳・南塚古墳の保存状況点検を実施予定（2 月）。 ・写真画像等の管理・保管については、写真室で温度管理の下で保管し、画像の貸出等に対応している。 ・新規寄贈図書をデータベースに入力 1,115 冊。 （11 月末現在）	A	○資料の収集・保管・展示 評価基準を満たしている。実物資料の適切な管理・活用等が行われているほか、所蔵品の状態に合わせて府職員との連携を行いながら随時調査点検を実施するなど、適切に管理されている。	A	A	A	施設所管課の評価は妥当である。	
		○調査研究による最新の成果の発信 ・館報の刊行 1 回 ・図録の刊行 2 回 ○一須賀古墳群との一体的な活用	○調査研究による最新の成果の発信 ・館報を 3 月に刊行予定。 ・春季特別展・夏季企画展において図録を刊行した。 （8 月以降は展示室特定天井改修工事に伴う、展示室休室のため展示企画は年 2 回のみ） ○一須賀古墳群との一体的な活用 ・校外学習等に対しては、風土記の丘のウォークラリー等を積極的に紹介。 （校外学習におけるウォークラリー件数／4 月～11 月 6 校） ・風土記の丘古墳探検ツアーの実施 5 月 3 日（土・祝）、10 月 25 日（土）参加者なしのため中止、2 月 21 日（土）実施予定 ・自然観察会等の実施の補助などを通して、多角的な利		○調査研究による最新の成果の発信 年度内に評価基準を満たす見込みである。 当初の予定通りに各展覧会に関する図録が刊行された。研究報告も博物館の調査研究発信の取組みとして適切に刊行した。 ○一須賀古墳群との一体的な活用 評価基準を満たしている。校外学習や展示等を通して一須賀古墳群との一体的な活用を図っている。自然観察会や近隣大学との連携など、多角的な活用を通して同館への興味関心につなげる取り組みがみられる。					

			用に便宜を図り、古墳や古墳時代への興味・関心を醸成していただく取り組みを行っている。 ・大阪芸術大学との連携展示において、一須賀古墳群出土の資料を展示予定。 ・うめまつり（2月21日（土）・22日（日））、さくらまつり（3月21日（土）・22日（日））を開催予定 ◎自己評価 館の設置目的及び提案内容に沿った管理運営を実施した。		◎施設の設置目的および管理運営方針にかかる評価 すべての評価基準を満たしている、またはその見込みである。研究の成果の発信や活用と、資料の維持管理の双方において適切な姿勢が認められる。				
(2)平等な利用を図るための具体的手法・効果	◇公平なサービスの提供と対応、障がい者・高齢者等への配慮がなされているか ○高齢者、障がい者等への利用援助 ○子どもにもわかりやすい解説の充実 ・子ども向け解説・リーフレットの提供等 6回	○高齢者、障がい者等への利用援助 ・例年敬老の日（9月16日）には65歳以上入館料無料として利用促進を図っているが、工事休館中のため未実施。 ・受付に老眼鏡を配備し、希望者に貸し出している。 ・障がい者支援施設の施設利用に対する要望、また支援学校等の校外学習にも適切に対応している。 ・チラシやHP等でサポートの必要な方への案内を記載し、聴覚障がい者に対しては、講座等の際に申し出があればUDトークによるサポートを行っている。 ・第184回入門講座「木簡の見方」（7月16日開催）は、展示室内で開催したが、聴覚障害の方の参加依頼を受け、モニターを使用してUDトークで対応した。 ○子どもにもわかりやすい解説の充実 ・春季特別展／こどもワークシートの作成とフォトスポット設置 春季特別展では、こどもワークシートを無料配布して問題を解きながら展示をより深く理解できるよう配慮した。また展示に親しんでいただくため、あわせて広報にも資するため、フォトスポットを設置した。 1点 ・夏季企画展／近つ飛鳥 Lab.の設置 夏季企画展では、展示にかかわる自然科学分析を身近に感じてもらえるよう、「近つ飛鳥 Lab.」と題し、花粉・寄生虫卵をハンディ顕微鏡で実際に観察できるエリアを設けた。 1点	S	○高齢者、障がい者等への利用援助 高齢者や障がい者への援助や、利用促進を図る体制が整っている。 ○子どもにもわかりやすい解説の充実 評価基準を満たしている。子ども向けの解説パネルやリーフレットの提供を規定回数以上実施している。ほか、企画展・特別展の際にはそれぞれの展覧会に合わせて工夫されたコンテンツを用意することで、体験型の学びの充実が図られている。	A	A	S	施設所管課の評価は妥当である。	

		・「もっと知りたい」パネルの設置 各展覧会では、解説パネルの図や文字を大きくしてわかりやすく表示したり、子ども向け解説パネル（「もっと知りたい」パネル）を設置したりするなど、わかりやすい丁寧な解説を心がけた。 春季特別展「もっと知りたい」パネル 2点 夏季企画展「もっと知りたい」パネル 6点 ◎自己評価 校外学習の受け入れは事前に周到な準備を行い、利用者とのコミュニケーションをとり、プログラムの内容等でご要望に添えるよう、適切な対応に努めた。近年は夏場に特に暑い日が多く、雨天の対応などで昼食場所にホールを提供するなどの対応も行っている。 こどもや考古学を知らない人向けに展示をわかりやすく理解できるよう、展示パネル等を工夫や各種解説資料の作成を行った。 展示室休室に伴い、支援学校や障がい者団体の利用はなかったが、講座等では UD トークの活用などを積極的に行い、利用者サービスの向上を図った。		◎平等な利用を図るための具体的手法・効果にかかる評価 すべての評価基準を満たしている。特に校外学習としての場の提供などでは、柔軟な対応が評価できる。企画展・特別展の内容についても、単調な展示とならないための工夫が図られている。また展示室休室中は、講演等障がい者への支援と対応を要する活動が中心となるが、自己評価の通り積極的なサービス提供を行い、ノウハウを蓄積した点は高い評価に値するため、S 評価とする。				
(3)利用者の増加を図るための具体的手法・効果	◇利用者増加のための工夫がなされているか ○展覧会・スポット展示等の実施・開催回数 4 回	○展覧会・スポット展示等の実施 ①春季特別展「百済王氏－絶統を紹ぎ興す－」（開催日数 44 日、展示室入場者 6,020 人） ②夏季企画展「古代人、食べる－食と考古学－」（開催日数 44 日、展示室入場者 4,445 人） ③スポット展示（ロビー開催）「古墳の終焉－横尾山古墳群」（滋賀県立安土城考古博物館との相互展示）（1 月 24 日（土）～2 月 23 日（月・祝）） ④スポット展（ロビー開催）「（仮称）想像が拓く古代－いまに昇るあわいと交わる－」（大阪芸術大学との連携展示）（1 月 24 日（土）～2 月 1 日（日）開催予定） ○ロビー展示の実施 1 階ロビーの使用不可の映像設備を撤去し、展示ケースを配置することにより、無料ゾーンにおける無料の展示コーナーを設置した。休館中の来館者対応に供するとともに、今後は無料ゾーンでも常設では公開しきれない一須賀古墳群をはじめとした府内の考古資料を展示していく予定。	S	○展覧会・スポット展示などの実施 年度内に評価基準を満たす見込みである。 春季特別展では館の強みを活かした展示を、夏季企画展では趣向を凝らした視点での展示を行うことで、同館の展示の多様性と挑戦を感じさせる実績となった。 以降は休館期間に入ったため、展覧会を開催しない環境下で来館者の関心を途絶えさせないための継続的な取り組みや工夫が求められている。ロビー展示の実施や連続講座の実施による成果がみられるため、年度末まで引き続き適切な対応を行うことに期待したい。	A	A	S	施設所管課の評価は妥当である。

		○講演会等の実施 ・特別展・企画展等関連講演会、入門講座等の実施 20 回	① 9 月 12 日（土）～10 月 31 日（金） 連続講座（前期）「近つ飛鳥で乙巳の変を語る」関連展示 ② 9 月 12 日（土）～10 月 31 日（金） 「一須賀古墳群」紹介展示 ○講演会等の実施 ①春季特別展関連 ・講演会『百済王氏に関する発掘調査成果』 4 月 20 日（日） 参加者 107 名 「百済寺跡出土の埴仏」 「勝山南遺跡の調査成果」 「多賀城跡に関する調査成果」 ・国際シンポジウム『百済と日本の古代寺院』 4 月 27 日（日）大阪歴史博物館講堂 参加者 206 名 ・埴仏作りワークショップ 5 月 5 日（月・祝） 参加者 23 名 ②夏季特別展関連 ・講演会 6 月 29 日（日） 参加者 76 名 「古代人の食生活とパラサイト考古学」 7 月 13 日（日） 参加者 89 名 「古代のお菓子と甘葛煎」 ・ワークショップ 参加者 35 名 7 月 20 日（日）「顕微鏡でさぐろう！古代人の食べ物」 ③交換講演会 弥生文化博物館開催分 ・ 4 月 29 日（火・祝） 参加者 55 名 ・ 7 月 5 日（土） 参加者 67 名 近つ飛鳥博物館開催分 ・ 5 月 18 日（日） 参加者 23 名 ・ 7 月 21 日（月・祝） 参加者 65 名 ④土曜講座・入門講座 ・入門講座 4 月 12 日（土）参加者 20 名 「ガラスの国産化と百済」 ・土曜講座 5 月 24 日（土）参加者 53 名 「春季特別展のみどころ」 ・土曜講座 6 月 14 日（土）参加者 28 名		○講演会等の実施 年度内に評価基準を満たす見込みである。 また、春季展覧会は内容に関係して韓国観光公社との共催としたことや、国際シンポジウム（韓国）の開催に至った。以後も在大阪韓国文化院との交流継続や、伽耶世界遺産シンポジウムとの連携など国際的な活動を継続しており、海外考古学分野との関係構築がなされたことが特に評価できる。					
--	--	---	---	--	---	--	--	--	--	--

		共催；大阪府教育委員会、公益財団法人大阪府文化財センター、大阪府立狭山池博物館、大阪府立弥生文化博物館、大阪府立近つ飛鳥博物館 開催期間；10月18日（土）～12月21日（日） ③ 唐古・鍵 考古学ミュージアム（奈良県田原本町） でかける博物館 in 唐古・鍵考古学ミュージアム「一須賀古墳群の馬具」 開催期間；1月14日（水）～3月1日（日） ④ 斑鳩町文化財活用センター（奈良県） でかける博物館 in 斑鳩町文化財活用センター「近つ飛鳥の7世紀」 開催期間；1月15日（木）～3月3日（火） ・出張講座・ワークショップ 7回 ・出張講座 4回（予定） ① 近鉄文化サロン阿倍野 考古学からみる大阪 「古代王権と大阪」2講座 「前方後円墳終焉後の王陵の形」 「仏教受容からみた難波と王権」 ② 香芝市二上山博物館友の会ふたかみ倶楽部講座 「推古・蘇我・聖徳太子～王陵の谷・磯長谷古墳群の成立を考える～」 ③ かなん文化財講座（河南町主催） 「山城廃寺、新堂廃寺、細井廃寺～瓦のちがいからみた寺の造営背景～」 ・出張ワークショップ 16回 大阪関西万博「大阪歴史体感ワークショップ」（勾玉） 大阪やおミュージアムフェスティバル2025（鏡・土器パズル） 関空広域周遊観光PRブース（土器パズル） 弥生文化博物館夏季企画展ワークショップ（フロッターージュ、土器パズル） 民家集落まつり（勾玉づくり） 道明寺天満宮（ハニワづくり） 橿原神宮サマーキャンプ（ハニワづくり） 守口市役所（勾玉づくり） 鳴松会南河内支部（ハニワづくり） 堺市立東文化会館（ハニワづくり） MC みはら（スリーステップで古墳を学ぼう） 島本町立ふれあい文化センター（勾玉づくり） 旧河澄家住宅（ハニワづくり） 橿原市立こども科学館（勾玉づくり）					・出張講座・ワークショップ 評価基準を超過し、更なる実績の積み重ねをはかっている。
--	--	--	--	--	--	--	---

		・現地見学会（展示関連） 2 回 ・現地見学会（講座関連） 2 回 ○「府民が参加する博物館」事業の実施 ・近つ飛鳥ギャラリーの実施 6 回 ・バックヤード探検ツアー 5 回 ○「風土記の丘」の活用 ・風土記の丘古墳探検ツアー 2 回	みらいのたからばこ in インテックス大阪（土器・鏡パズル） 吹田市立千里山竹園児童センター（勾玉づくり）予定 ・現地見学会（展示関連） 『百済王氏の足跡をたどる』 日程① 4 月 12 日（土） 参加者 34 人 大阪歴史博物館、大阪市内の百済王氏関連遺跡（細工谷遺跡、勝山南遺跡等） 日程② 5 月 11 日（日） 参加者 32 人 枚方市内の百済王氏関連遺跡（百済寺跡、禁野本町遺跡等） ・現地見学会（講座関連等） ① 香芝市二上山博物館友の会磯長谷現地見学会 11 月 16 日（日） 参加者 42 人 ② さくらウォーク（予定） 3 月 21 日（土）磯長谷古墳群を巡る ○「府民が参加する博物館」事業の実施 ・近つ飛鳥ギャラリーの実施（一般貸出） ① 5 月 11 日（日）～25 日（日）太子町水彩画クラブ作品展 ・館主催ギャラリー展示の実施 ① 3 月 29 日（土）～5 月 10 日（土） 春季特別展連携写真展「百済王氏のゆかりの地をたずねて～扶余・公州・益山～」 ② 7 月 8 日（火）～31 日（木） 第 6 回 kids 考古学新聞コンクール全国巡回展 ③ 令和 7 年 8 月 30 日（土）～10 月 31 日（金） 前期連続講座連携写真展「写真でたどる乙巳の変」 ④ 1 月 16 日（金）～2 月 1 日（日） 南河内東部地区小学校児童はにわ展 ※トップライト工事のため、2・3 月のギャラリー使用不可により開催回数減 ・博物館バックヤード探検ツアー 5 月 5 日（月・祝）、6 月 15 日（日）、7 月 20 日（日）（今年度残り 2 回予定 2/21（土）・3/22（日）） ○「風土記の丘」の活用 古墳探検ツアーのほか、自然観察等の利用に対する協力や便宜を図っている。	・現地見学会 評価基準を満たしている。 ○「府民が参加する博物館」事業の実施 ・近つ飛鳥ギャラリーの実施 改修工事との兼ね合いが理由である 1 回分の回数減を除いては、評価基準を満たす。 ・博物館バックヤード探検ツアー 年度内に評価基準を満たす見込みである。 ○「風土記の丘」の活用 評価基準を満たしている。自然観察等の取組協力もなされており、評価基準を満たす。また、					
--	--	--	---	---	--	--	--	--	--

		○広報の積極的な展開 ◇利用者数 ○入館者数、館外利用者数及び風土記の丘利用者数 令和7年度年間目標 ・入館者数 32,200 人 ・館外利用者数 18,810 人 ・風土記の丘利用者数 115,000 人 令和6年度実績 ・入館者数 69,442 人 ・館外利用者数 16,592 人 ・風土記の丘利用者数 114,847 人 令和5年度実績 ・入館者数 65,953 人 ・館外利用者数 18,268 人 ・風土記の丘利用者数 122,657 人 ○類似施設との比較	・風土記の丘古墳探検ツアー 2回実施 5月3日（土・祝）古墳時代まつり 2月21日（土）うめまつり ・南河内自然と子どもネットワーク「自然観察会」3回（今年度計4回予定）4月27日（土）、7月26日（土）、10月4日（土）雨天中止、1月24日（土）予定 ・全国風土記の丘協議会総会・研修会の開催 11月20日（木）・21日（金） ○広報の実施 ・企画展及び特別展のポスターとチラシ、ミニギャラリー等催しのチラシを作成し、学校、公民館をはじめ各関係機関に配布。 ・各種イベントごとに大阪府政記者会、大阪教育記者会、河南町記者クラブ等に情報を提供。 ・『博物館だより』 発行1回（今年度2回（9・3月）9月／63号発行、3月／64号発行予定 ・障害者対策基本法の改正を受け、ホームページを更新。 ・Facebook、Instagramによる迅速な情報提供。 ・各種広報メディアの活用 - Web広告の掲載 春季特別展、夏季企画展 - 市町村広報への掲載依頼 各期展示の他、各種事業 ○入館者数、館外利用者数及び風土記の丘利用者数 ・総入館者数 42,429 人（4月～11月）（昨年同月比 88.0%） ・館外利用者数 13,071 人（4月～11月）（昨年同月比 362.0%） ・風土記の丘利用者数 97,594 人（昨年同月比 127.7%） 指定管理開始以降、着実に入館者数は伸びており、今年度の春季特別展はこれまでの入館者数記録を大きく塗り替え、夏季企画展の入館者数が好調であったため、全体入館者も昨年より伸びる結果となっている。 8月から長期休館に入ったため、連続講座の実施やロビー展示の開催と共に、館外活動に重点的に取り組み、館の知名度アップを図ったが、再開館時に長期休館の影響がどの程度出るのが不安要素となっている。 ○類似施設との比較	評価項目で設定していなかった自然観察会の開催も昨年に引き続き安定して実施している。ほか、今年度は風土記の丘協議会総会・研修会が開催されるなど、「風土記の丘」の多面的な活用に与している。 ○広報の実施 評価基準を満たしている。各関係機関に配布するだけでなく、ホームページや SNS を使用した広報を行っている。各種メディアへの広告掲載を実施しており、広報の効果について統計を取り検討するなど、展開するだけでなくデータとして有効に活用する姿勢がみえる。 ○入館者数、館外利用者数及び風土記の丘利用者数 年間目標に対する実績は、入館者数 131.7%、館外利用者数 69.5%、風土記の丘利用者数 85.0%である。入館者数については休館の関係もあり特例的な設定目標となっているが、現時点で目標を超過している。 館外利用者数については、館外活動の実施時期が前後した関係で昨年同月比に大きな差がみられる。対して、同条件であった令和5年度の同月 8,648 人と比較しても、51%程度の増加があり、指定管理開始初年以來の成長が伺える。 ○類似施設との比較 類似施設との比較において、比較対象館は昨				
--	--	--	---	---	--	--	--	--

		同規模で交通の便等が類似している高槻市立今城塚古代歴史館と比較する。 ・近つ飛鳥博物館　：42,429 人(4 月～11 月) 前年比 88.0% ・今城塚古代歴史館：39,105 人(4 月～11 月) 前年比 111.1% 近つ飛鳥博物館と近しい条件の今城塚古代歴史館と比較すると、今城塚古代歴史館は全体の入館者が4千人増となっているが、当館は工事による展示室休室や11月からの完全休館の影響もあり6千人減となった。春季特別展・夏期企画展の入館者が好調であったため、減幅はかなり圧縮できたと考えている。	年度に引き続き、コロナ以前の水準に向けてゆるやかな回復基調を見せる。近つ飛鳥博物館については1ヶ月分の休館を加味する必要があるが、同様に来館者は増加傾向にあると捉えてよいものと考えられる。				
	◇利用者満足度調査 ○利用者満足度調査の結果 ・「満足」「やや満足」の割合 90 %	○利用者満足度調査の結果 ・「満足」「やや満足」の割合 92.5% 調査期間：4月1日～11月30日 回答数144件 ◎自己評価 今年度は、春季特別展がこれまでの記録を大きく塗り替える入館者数となり、続く夏季企画展も好調であった。特別展においては東北の多賀城跡の資料を展示することにより、遠方の資料を大阪で見ることができるところで注目を得た。さらに、ロビーの無料ゾーンの未活用エリアに展示ケースを配置し、無料で見学できる展示スペースを設置した。常設展に展示しきれない資料や新規発見資料の速報展示、連続講座に関連した資料の展示を行うことにより、考古学の理解を深めることができるよう、展示サービスの拡充を図った。 また今年は長期休館となるため、館外展示やアウトリーチ活動を強化しており、例年以上に館外での実績が大きくなっている。来年度に同規模の事業を継続することは困難であるが、可能な範囲で館外活動を継続することにより、館の知名度アップにつなげたいと考えている。 また参加者が低迷していた土曜講座・入門講座の改革を図るため、連続講座に取り組んだところ、予想以上の参加者を獲得することができた。今後継続した取り組みとし、収益増にもつなげることにより、来館者サービスの拡充を図りたいと考えている。	○利用者満足度調査の結果 ・「満足」「やや満足」の割合 評価基準を満たしている。 ◎利用者の増加を図るための具体的手法・効果にかかる評価 定量的な評価基準についてはおおむね達成できる見込みである。自己評価の通り、長期休館に入った11月以降は利用者の伸び悩みが懸念される。特に休館に伴い館外利用者も減少傾向にあるため、年度末までに着実に目標を達成することをめざし、引き続き講座の改善などを通じた挑戦的な取り組みが求められる。 年間の活動の総評としては、総じて展覧会以外の活動についても積極的に展開しており、博物館の活動の周知に努めている点が評価される。ほか、研究成果の発信の点においても展覧会に絡めた国際シンポジウムの開催など、考古学分野の方面での実績が高く評価できる。展示記録の更新や展示サービスの継続的な拡充など、過去年度からの経験によって適切な成果に結びついており、S評価として評価する。				

	(4)サービスの向上を図るための具体的手法・効果	◇サービスの向上が図られているか ○イベントと連携した入館料無料日の実施 ○インターネットの活用 ・ホームページの更新 更新回数 70 回 ・SNS の活用 Facebook、Instagram の投稿数計 150 回 ○展示解説リーフレット・解説シートの配布	○イベントと連携した入館料無料日の実施 ・春季特別展「百済王氏」開催期間中、大阪・関西万博開幕日（4 月 13 日（日））を入館料無料とした。 展示室入館者数 271 人 ・「関西文化の日（11 月 15 日（土）・16 日（日））」、「敬老の日（9 月 15 日（月・祝））」は、展示室休室のため今年度は実施せず。 うめまつり（2 月 21 日（土）・22 日（日）予定） ／さくらまつり（令和 6 年 3 月 21 日（土）・22 日（日）予定）も展示室休室中のため今年度実施予定なし ○インターネットの活用 ・ホームページ更新 31 回 ・Facebook 61 回 (フォロワー数 1,540 人←R 6；1,540 人) ・YouTube (チャンネル登録者数 515 人←R 6；490 人) 企画展示・風土記の丘などの紹介動画、展示解説動画を作成し Facebook、YouTube で公開 ・Instagram 投稿数 62 回 (フォロワー数 1270 人←R 6；801 人) Instagram では、これまでの当館行事等や考古学的な内容の発信に加え、建物や風土記の丘の自然など、新たな魅力を発見してもらうための内容にも拡大して投稿している。 ○展示解説リーフレット・解説シートの配布 ・リーフレット 春季特別展、夏季企画展で作成 ○大阪関西万博催事への出展にあわせ、5ヶ国語（日本語、英語、中国語（繁体字・簡体字）、韓国語）のパンフレットを新規に作成し、万博会場や関連イベント等で配布を行った。 ◎自己評価 ホームページの活用を進めるとともに、SNS での情報発信を積極的に行っている。また、特別展・企画展の際には、チラシ・ポスターなどの既存の広報媒体にとどまらず、SNS 広告など効果的な広告媒体へ発信をして、広範に博物館・風土記の丘の魅力やイベントなどの情報を発信するこ	A	○イベントと連携した入館料無料日の実施 イベントに合わせて随時無料開放を効果的に行い、サービスの向上を図るとともに博物館活動の理解促進等にも寄与している。例年実施のイベントが開催できない点については、同時期の来館者増減との影響関係を分析するなど、休館ならではのデータ徴取の機会として活用する姿勢が求められる。 ○インターネットの活用 ホームページや SNS により積極的に催事の告知や活動の発信がなされている。SNS については年度内に評価基準を満たす見込み。ホームページ更新は設定した目標を満たせていないため、休館中の発信に努めて目標を満たす姿勢が求められるが、他媒体の積極的な発信により回数的な不足が補われていると認められる。 SNS ごとの発信内容・方針を明確にして運用している。フォロワー数については媒体によって差が生じているため、発信内容とフォロワー数の差異の関係について分析することが期待される。 ○展示解説リーフレット・解説シートの配布 実施されており評価基準を満たす。多言語対応のパンフレットの作成も行っており、これらを効果的に頒布・活用することが今後のインバウンド来館者増加に繋げる下地を醸成した点が評価できる。 ◎サービスの向上を図るための具体的手法・効果にかかる評価 ホームページ更新回数を除き、評価基準を満たしている、あるいは満たす見込みである。前年度に引き続いて各方面への積極的な発信が図られており、認知度の向上につながっている。自己評	A	A	A	施設所管課の評価は妥当である。
--	---------------------------------	---	--	---	--	---	---	---	-----------------

			とにより、明確な効果が表れた。 現状以上に広告費に経費を割くことは困難であるため、今後は無料の媒体をいかに有効に活用できるかという点を検討していく。		価の通り、現状活用できる範囲で更なる効果を生み出すためにも、休館中に今まで蓄積された統計を分析することが求められる。				
	(5)施設及び資料の維持管理の内容、的確性	◇施設・設備の維持・安全管理計画は適切か ○施設及び資料の管理 ・年間計画の策定と適切な実施 ・定期点検の実施と記録簿の作成 ○危機管理 ・マニュアルの履行 ・訓練の実施	○施設及び資料の管理 ・年間計画の策定と適切な実施 AKN 共同事業体各社との柔軟な連携のもと、施設管理年間計画を策定、月 1 回の J V 会議を開催し、情報共有・対応策の即時実施に努めた。 ・定期点検の実施と記録簿の作成 近鉄ファシリティーズによる年間点検計画を履行し、その報告書を作成。消防用設備等点検結果報告書は、消防法の規定に基づき所轄消防署に提出する。 ○危機管理 ・マニュアルの履行 火災、その他災害の予防および危機事象発生時における対応について定めた危機管理マニュアルに従って対応を行った。 ・ B C P の策定 社内的取組として、施設 B C P（業務継続計画）の策定を行った。 ・訓練の実施 自衛消防訓練を 12 月 27 日（臨時休館日）に実施予定。 ◎自己評価 博物館施設、設備、館蔵資料について、館内、指定管理者グループ内ならびに所管課との緊密な連絡・相談のもと適正に維持管理を行った。これにより、来館者の見学環境及び資料の保存・展示環境や安全な資料管理に努めた。また、危機管理マニュアルの見直しをおこない、それに沿って対応した。	A	○施設及び資料の管理 ・年間計画の策定と適切な実施 年間計画が策定され、計画に沿った施設管理が実施されている。また、緊急を要する災害時や機器等故障時においても適切な対応がなされている。 ・定期点検の実施と記録簿の作成 施設・設備の定期点検が適切に実施され、適切な報告書の作成がなされている。 ○危機管理 ・マニュアルの履行 危機管理対応マニュアルに基づく運営の徹底がなされている。 ・訓練の実施 評価基準を満たしている。 ◎施設及び資料の維持管理の内容、的確性にかかる評価 すべての評価基準を満たしており、適切な管理運営がなされている。施設機器の故障や災害など緊急の際にも、適切な危機管理体制により迅速な対応がとられている。また今年度は国庫補助を受けたうえで館蔵資料に係る防火対策なども行っている点が評価される。	A	A	A	施設所管課の評価は妥当である。
	(6)府施策との整合	◇提案に沿った府施策との整合が図られているか ○世界遺産百舌鳥・古市古墳群の情報発信 ・関連展示の実施 2 件 100 点	○世界遺産百舌鳥・古市古墳群の情報発信 ・もずふる V R イベント 4 月 13 日（日）	S	○世界遺産百舌鳥・古市古墳群の情報発信 世界遺産関連展示の進捗状況は各展示の合計 4 件 161 点として、展示資料点数 160%を達成	A	A	S	施設所管課の評価は妥当である。

		収の徹底）と節電対策（展示室、収蔵庫の温度管理）に重点的に取り組んだ。 ○太子町主催のクリーンキャンペーンに参加し、博物館進入路の美化活動に協力した。 12月7日（日）（清掃作業は6日（土）に実施）予定 ◇大阪府障がい者差別解消条例等に基づく合理的配慮の提供 ◇万博催事への参加・協力	◇観光庁による「心のバリアフリー認定施設」の認定を令和6年度に取得。また聴覚障害者対応したUDトークについても導入し、既に活用を図っている。 ◇支援学校や障害者施設等の校外学習受入を積極的に行っている。 ◇会期中に館内で、掲示物の掲出、パンフレットの配布等、万博の広報を実施した。 ◇大阪歴史体感ワークショップへ協力出展 7月31日（木）、大阪府文化財保護課、弥生文化博物館と共同出展。古代衣装体験、ポスターセッション、勾玉作成キット・図録・グッズ販売を実施した。 ・古代衣装体験134人、勾玉づくり80人等、全体での体験人数は624人。 ◇関西国際空港万博ブースでのPRイベントへの出展 8月19日（火）国際線到着ロビー 河南町と共同出展 ◎自己評価 大阪府の施策に協力し、世界遺産百舌鳥・古市古墳群の造営にかかわる地域や産業などに焦点をあて、最新の調査研究成果を組み込んだ展示など、情報発信を積極的に行うとともに、万博開催にあわせた取組にも積極的に参加し、広報活動を行った。また、こころの再生府民運動や府立博物館等を核とする誘客促進事業へも協力するとともに、そこで得られた企業との関係を継続し、次期の運営に生かせるよう更なる展開へもつなげることができた。 また今年度は環境問題への取組も意識し、ゴミの減量化のため古紙回収を積極的に推進するとともに、館周辺の美化への取組を進めるため、地元自治体の太子町の清掃イベントに参加し、博物館進入路の清掃活動を行っている。		◇大阪府障がい者差別解消条例等に基づく合理的配慮の提供 「心のバリアフリー認定施設」の認定を取得して以降も着実に合理的配慮を提供している。聴覚障がい者に対応した講演会や、校外学習の受け入れを積極的に行っている。 ◇万博催事への参加・協力 適切に実施された。特にワークショップ当日は日中にワークショップの用意物を提供し終えるなど、大きな反響があった点が高く評価される。 ◎府施策との整合にかかる評価 すべての評価基準を満たす、あるいはその見込みであり、全体として計画どおりの実施状況と評価できる。誘客事業や万博、清掃イベントの参加など、府内の活動に積極的に参加していることが特筆に値し、目標設定を上回る成果を見せており、博物館の知名度向上にも寄与していると判断できる。こうした点から、本項目についてはS評価とする。				
る ら Ⅱ サ な さ	(1)利用者満足度調査等	◇利用者満足度調査の実施により利用者の意見を把握し、その結果を運営に反映し	◇利用者満足度調査の実施による利用者意見の反映・常設展、特別展、こどもファーストデイなどのイベント	A	◇利用者満足度調査の実施による利用者意見の反映	A	A	A	施設所管課の評価は妥当である。

		ているか。	開催時にアンケートを実施。それぞれの来館者ニーズの把握に努めた。 意見を取入れ、講座や教室の最適な開催時間の設定、放映設備の改善等を継続して行い、随時意見の反映に取り組んでいる。 ◎自己評価 アンケートによるご意見を館内で共有し改善に繋げている。トイレに関する苦情・要望が多数寄せられていたが、大阪府事業でトイレ洋式化改修工事を進めていただいた。		利用者の意見を反映した事業実施がなされている。休館中のアンケート回収については、内容や実施タイミングを含め、アンケートの取り方に更なる工夫が求められる。 ◎利用者満足度調査等 意見反映に取り組むことで、良好な博物館環境の維持に努めていると評価できる。				
	(2)その他創意工夫	◇その他指定管理者によるサービス向上につながる取組み、創意工夫が行われているか ○動画等の公開 ・インターネットでの解説動画等の公開5件	○特別展・企画展の紹介動画の公開。 ・特別展・企画展関連2回（11月現在） ・ロビー展示（一須賀古墳群）関連1回 ・こどもファーストデイ6回（11月現在） ◎自己評価 博物館の情報発信の手段を強化してきた。今後も更に博物館を知ってもらうためのツールとしてさらに活用していく。	A	○動画等の公開 11月時点で合計9件の動画公開を実施しており、評価基準を大きく上回っている。 ◎その他創意工夫にかかる評価 評価基準の回数を大きく上回っており、積極的な運用が認められる点が高く評価できるため、S評価とする。	A	S	S	評価基準の回数を大きく上回っていることから、施設所管課の評価は妥当である。
Ⅲ適切な管理業務の遂行を図ることができる能力及び財政基盤に関する事項	(1)収支計画の内容、適格性及び実現の程度	◇事業収支について、計画どおりに実施されているか	◇事業収支計画 【収支計画（当初予算）】 収入（税込） 大阪府委託費 143,200,000 円 入館料収入等 2,520,000 円 計 145,720,000 円 支出（税込） 施設維持管理費 59,283,368 円 人件費他 86,436,632 円 計 145,720,000 円 11月末現在の進捗状況 収入（指定管理料を除く事業収入）150% 支出（11月分請求書まで） 66% ◎自己評価 入館料収入は11月末現在で目標金額の150%に達する。8月～翌3月末まで工事による展示室休館のため、以降の入館料収入なし。 入館料収入が目標額を上回った要因は、春季特別展及び夏季企画展の集客増加が、入館料収入増につながる。	A	◇事業収支計画 経費節減に加え、補正予算策定などにより、適切な経費執行が行われている。 ◎収支計画の内容、適格性及び実現の程度にかかる評価 企画展・特別展の展示内容が直接集客増加および入館料収入増加に繋がっている点において、博物館としての活動が適正に行われているもの	A	A	A	施設所管課の評価は妥当である。

			(春季特別展：1 日平均入館者数 昨年度特別展比、約 177%) (夏季企画展：1 日平均入館者数 昨年度企画展比、約 88% 但し、有料入館者数 118%増加) 支出の割合は、11 月末現在で 66%。経費節減に留意し、計画どおりに進捗し安定的な運営を実現している。		と評価できる。				
	(2)安定的な運営が可能となる人的能力	◇必要な人員数及び人材を確保・配置のうえ、適切に事業が実施されているか <							

			益を維持している。						
			令和7年度上半期 売上総利益 899,420 千円 営業利益 250,211 千円 経常利益 264,379 千円 純利益 180,379 千円 借入金なし						
			【株式会社乃村工藝社】 2026年2月期 第2四半期（中間期）における業績は、海外ブランドの店舗を多く手掛ける専門店市場や、大阪・関西万博における多くのパビリオンや出展ブース等の空間づくりに携わった博覧会・イベント市場等において売上が堅調に推移した。売上高は前年同期に比べ 39.0%増加し、805 億 34 百万円となった。利益面においては、売上高の増加や利益率の改善により、営業利益は 68 億 95 百万円（前年同期比 377.9%増）、経常利益は 70 億 27 百万円（前年同期比 360.2%増）である。						
			令和7年度上半期（2025年3月1日～2025年8月31日） 売上高 80,534,000 千円 営業利益 6,895,000 千円 経常利益 7,027,000 千円 純利益 4,442,000 千円		◎安定的な運営が可能となる財政的基盤にかかる評価 グループの各構成員とも安定した経営状況にあり、評価基準を満たしている。				

R 5 年度評価：A
R 6 年度評価：A
R 7 年度評価：A
総合評価（R 5 ～ 6 年度）：II
最終評価（R 5 ～ 7 年度）：II

※評価の基準：モニタリング評価は、次の基準により行うこととする。

①項目ごとの評価は下記の4段階評価とする。

 S：計画を上回る優良な実施状況 A：計画どおりの良好な実施状況 B：計画どおりではないがほぼ良好な実施状況 C：改善を要する実施状況

②年度評価は、次の4段階評価とする。

 S：項目ごとの評価のうちSが5割以上で、B・Cがない A：項目ごとの評価のうちBが2割未満で、Cがない B：S・A・C以外

 C：項目ごとの評価のうちCが2割以上。又はCが2割未満であっても文書による是正指示を複数回行う等、特に認める場合

③総合評価及び最終評価は、次の4段階評価とする。

 I：評価対象となる年度の年度評価のうちSが5割以上で、B・Cがない II：評価対象となる年度の年度評価のうちBが3割未満で、Cがない III：I・II・IV以外

 IV：評価対象となる年度の年度評価のうちCが5割以上。ただし、評価対象期間の後半、取組状況に継続的な改善傾向が認められる場合を除く

※備考：R 6 年度は総合評価、R 7 年度は最終評価を行う。